エコ協通信

かつやまの音楽家のたまごたちコンサート2011
オーディション合格者による「室内楽コンサート」開催

音楽家のたまごの発掘と育成

かつやまの音楽家のたまごたちコンサート実行委員会の活動は、今年度で4年目を迎えます。勝山の風土、教育によって、音楽の分野でも素晴らしい子どもたちがこれまでに大勢育っています。

そんな子どもたちを応援しようと、これまでコンサートや公開レッスンを企画してきました。

プロ奏者との協演

3月4日（日）、市民会館の大ホールで「室内楽コンサート」を開催しました。市内外から330人のお客様が来られ、大盛況でした。

昨年10月のオーディションに合格した7人が、プロの弦楽器奏者と協演し、練習や本番を通して多くのことを学び、本番では立派に演奏を成し遂げました。この経験と自信は、今後の音楽活動に大いに活かされるでしょう。

音楽関係者や来場者からは「良い企画なので今後もぜひ続けてほしい」「もう、たまごの殻を割っているね」など、感動の声が多数寄せられました。

コンサートに出演して

出演者の1人がスタッフに宛てたメール文をご紹介します。

こんにちは！昨日は本当にありがとうございました。これまで出演に向けて、たくさん支えてくださったことに心から感謝しております。お世話になりました。本番は憧れの皆さんと気持ち良く演奏ができましたし、このコンサートに出演できてとても幸せでした。

初めての室内楽で、こんなにも素敵な旋律のある華やかなシューマンの曲を演奏させていただけて嬉しかったです。勧めてくださってありがとうございました。他の出演者の皆さんの演奏も素晴らしくて良い刺激となりました！

これからも大学で精一杯音楽の勉強に励みます。本当にありがとうございました。

かつやまの音楽家のたまごたち
コンサート実行委員会

問 未来創造課（市役所2階）（☎88-1115）

「勝山エコライフ」コラム

第9回　2年目の勝山ライフ

本年3月28日で、私の勝山ライフが1周年を迎えました。この充実した1年間は、皆さまのおかげです。今回は、昨年を振り返り、勝山の自然も暮らしももっと良くするための2つの提案をし、2年目の活動に繋げたいと思います。

勝山にあるもの、良いところを教える…勝山を誇りに

1.「当たり前」を見直すこと

勝山の当たり前、若い人・高齢者の当たり前など、様々な「当たり前」があります。しかし、別の視点からは、それらが全く当たり前ではないのです。例えば、勝山の街中にホタルが飛んでいることは、大変素晴らしいことです。

一方、スギだらけの山やコンクリ護岸ばかりの川は、残念に思います。また、先を見て計画的に生きる皆さんの民族性は、私の目からは大変素晴らしいことに映りますが、一方で平気で川にごみを捨てる方や、お店のショッピングカートを元の位置に戻さない方が多いことは、非常識に思えます。

これらの「当たり前」を客観的に見直すことを、2年目はさらに進める予定です。勝山をもっと良くするためには、良い点と問題点を「当たり前」の中から見つけていく視点が必要なのです。

2.「あるもの教育」をすること

人は身近なことほど興味がなく、具体的に知らない傾向があります。また、地方では、地元の良さは無視し、表面的な都会の良さばかりが強調され、大人は子どもたちに、勝山の良さについてあまり教えていません。「あれがない、これがない」という「ないもの教育」を行ってきたのではないでしょうか。

例えば、「勝山には何もないし、仕事もない」とすり込まれて育った子が、勝山を誇りに思い、勝山に帰って来るでしょうか。なぜ「勝山になかった仕事を興す」という選択肢を与えないのでしょうか。これでは自ら勝山を衰退させているようなものです。

そこで、特に子どもたちには、都会にないものを認識させた上で、勝山にある良さを伝え、自らさらに良くしていく「あるもの教育」をしたいと思っています。

皆さんも、ご自分の生活や考え方を見直してみてください。新たな視点で勝山について学び、もっと良いまちにしていきませんか。

5月の環境自治体会議は、そんな勝山を見直す絶好のチャンスです。ぜひご参加ください。

歴史の散歩道（138）

勝山藩校「成器堂」扁額

この扁額は現在、成器南小学校に保管されているが、天保十四年（一八四三）、藩校「読書堂」が「成器堂」と改称された際に、講堂に掲げられたものであろう。これは貴重な成器堂の遺産として、昭和五十四年四月五日に勝山市有形文化財に指定された。

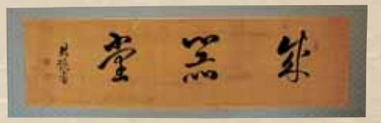
扁額には、江戸の林家の儒学者である林述書と記されている。彼は、林家中興の大学頭と言われる林述斎の子で、字は用韜、樫宇はその号である。樫宇は、天保八年（一八三七）に昌平坂学問所（昌平黌）の大学頭（七代目）となる。当時の勝山藩家老の林毛川は、文政十年（一八二七）から昌平黌で学んでおり、樫宇とは親しい間柄であったと思われる。そのような縁によって、毛川は扁額の文字の揮毫を樫宇に依頼したものと思われる。

「成器」の由来は、『礼記』の「学記」編にある「玉不琢、不成器、人不学、不知道（玉琢かざれば器と成らず。人学ばざれば道を知らず）」から採ったものである。玉も磨いて光沢を出さなければ、宝玉として通用しないように、人は学んで物ごとの道理を心得ぬことには、才能を発揮することはできない、という意味である。（『新釈漢文大系28礼記中』（竹内照夫著））

若越の藩校を例にとると、丸岡藩の「平章館」は『書経』から、大野藩の藩校「明倫館」は『孟子』滕文公編の「人倫を明らかにする」から採っている。また、小浜藩の「順造館」は『礼記』の「先王の詩書礼楽に順い、以て士を造る」の文言から、福井藩の「明新館」は『大学』の「明徳を明らかにし民を新たにす」から採っている。鯖江藩の「進徳館」は孔子の説く「君子進徳修業」から採っている。

幕府の昌平黌はもとより、各藩校の教科の中心は漢学であり、人間形成の中核を儒経の教えに置いているため、校名を儒教の経典の中から武士の修養にふさわしい徳目名を選び、教育目標とした。成器堂では、武術はもちろんのこと、時代の要請を担って洋医学・兵学・理化学なども学ぶようになっていた。

文化財保護委員　増田公輔



「成器堂」扁額（縦60cm、横180cm）

おすすめ図書

一般図書

「タニタ式 カラダのひみつ」

池田　義雄／著
三笠書房

タニタ体重科学研究所所長がタニタ食堂のひみつに答えるほか、太りにくいカラダのひみつ、メタボと生活習慣病の関係、カラダと心が快適になる6つの習慣を紹介。タニタの社員食堂オリジナルレシピつき。

「金ケ崎の四人 信長、秀吉、光秀、家康」

鈴木　輝一郎／著
毎日新聞社

敵地・金ケ崎城で一目散に逃げる信長。出世のチャンスに勇む秀吉。妙にニヒルな光秀。そして巻き込まれた家康…。のちに天下を狙う4人の七転八倒の迷走ぶりと奇跡の決断をコミカルに描く。

中高生図書

「新聞の読みかた」

岸本　重陳／著
岩波書店

新聞が読みこなせれば一人前。社会を見る目が開け、学校の勉強や宿題にも役立つ。若者に向けて、新聞がおもしろくなるガイドから、新聞のしくみ、感想文のまとめ方まで、親切に手ほどきする。

「児童文学キッチン」

小林　深雪／文
講談社

「クマのプーさん」のお誕生日ケーキ、「長くつ下のピッピ」のハート型クッキー…。児童文学の名作に登場する素敵なお菓子を、作品の紹介、お菓子のレシピとともに掲載。

こども図書

「おりがみ手紙」

寺西　恵里子／作
汐文社

手紙よりも手軽に、ちょっと気持ちを伝えたい…。そんな時にピッタリなのが、おりがみ手紙。かわいい花レターやおしゃれ封筒など、さまざまなおりがみ手紙のおり方をプロセス写真で解説する。

「公平、いっぱつ逆転!」

福田　隆浩／作
偕成社

白石公平は小学校5年生。気が弱くてめだつのがきらいなのに、なんのまちがいか、転校先の小学校では、うわさされるほどけんかが強いことになっていた!? 公平のスリリングな毎日がはじまる…。

Web 勝山市立図書館　☎88−6000
ホームページ　http://tosyokan.city.katsuyama.fukui.jp/